学年	高校１年	教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
教科書名	歴史総合（山川出版社）			副教材名	歴史総合資料集（山川出版社）		
コース・クラス	中高一貫						

Ⅰ．目標

１．我が国と諸外国や諸地域との関係を基本的な枠組みの中で理解する。数多くの事象を題材に用いて歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。

２．「現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」の理解を教科目標とする。現在の諸問題はなぜ生まれてきたのか。その道筋の時間的・空間的（地理的）な要素を意識し、様々な歴史上のできごとを多面的に関連づけて理解することで、現代に生きる私たちの社会の在り方や直面する課題について思考する力を養う。

Ⅱ．授業のねらい

１．16 世紀以降の歴史を概観しながら、世界の一体化の進展とそれに伴う歴史の変動の因果を考えることを実践する。

２．講義型の授業に加え、アクティブラーニング型授業も適宜取り入れることで多面的・多角的な理解を図る。

３．問いに対して、積極的に自ら情報収集をする姿勢を重視し、他教科・科目で習得した知識や技能を相補的に用いて、歴史的事象相互の関係性を見極める総合的な考察力・思考力を高める。

Ⅲ．授業の進め方

１．歴史総合の目標にある「世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉える」ことを意識し、「現代的な諸課題とのつながり」という視点で講義を行う。

２．単元ごとに歴史的事象の基礎知識を講義し、並行して推移・展開への問い（主題）を考察する。

３．授業内で提示する様々な資料（史料）を基に、「比較・関連づけの問い」から、複数の歴史的事象の関連性やその影響などを多面的・多角的に考え、自分自身の考えを表現する活動を重視する。

Ⅳ．学習上の留意点

１．歴史的事象において、時間軸を使う「歴史的な見方・考え方」と、空間軸を使う「地理的な見方・考え方」を相互補完的に応用することで、様々な視点で歴史的事象を考えてみること。

２．用語の暗記に偏ることなく、「なぜそうなったのだろうか？」という問題意識を持ちながら、様々なできごとの因果関係を比較・整理し、各種資料・史料を読み取る練習をすること。

３．授業内の解説や他者の発表などでは、要点を聞き分けてメモを取り自身の理解を深める努力をすること。

Ⅴ．定期試験

１学期　期末試験　：アジア諸地域の繁栄と日本 ～ 自由民権運動と立憲体制

２学期　中間試験　：第一次世界大戦とロシア革命 ～ 日本の恐慌と満州事変

２学期　期末試験　：日中戦争と国内外の動き ～ 占領政策の転換と日本の独立

３学期　学年末試験：日本の恐慌と満州事変 ～ 第二次世界大戦と太平洋戦争

Ⅵ．評価の方法

各学期の定期試験、課題、レポート、発表、小テストなどの総合評価。

Ⅶ. 授業計画

学期	月	単元	試験等	学習目標
一学期	4 5 6 7	第１章　結びつく世界 ・アジア諸地域の繁栄と日本 ・主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 第２章　近代ヨーロッパ･アメリカ世界の成立 ・産業革命 ・西アジアの変容と南アジア東南アジアの植民地化 ・中国の開港と日本の開国 第３章　明治維新と日本の立憲体制 ・明治維新と諸改革 ・明治初期の対外関係 第４章　帝国主義の展開とアジア ・条約改正と日清戦争 ・日本の産業革命と教育の普及 ・帝国主義 ・日露戦争と東アジアの変動 ・世界分割と列強の対立	小テスト 小テスト 期末試験	16 世紀におけるアジア各地の大帝国の繁栄と、ヨーロッパで成立した主権国家体制とその特徴をつかみ、ヨーロッパ諸国のアジア交易への進出を理解する。／大航海時代以降の植民地の獲得とヨーロッパ諸国の重商主義政策との関係を理解する。 産業革命による工業化や交通革命・通信革命などの変化によって西ヨーロッパを中心とした植民地支配が拡大したことを考察する。／アジア諸地域における植民地化の歴史について追及する。／開国を転換点として、江戸幕府と朝廷･諸大名の関係に変化が生じたことを理解する。 新政府の方針をとらえるとともに、新政府側･諸藩側の立場での対応を考察し理解する。／明治新政府が清･朝鮮･欧米諸国とどのような関係を築こうとしたのかを考察し理解する。 条約改正の展開が、清を中心とした東アジアの国際関係に与えた影響を考察し理解する。／日本の産業革命その影響について考察する。／帝国主義について、欧米諸国の経済・政治的な動向を考察し理解する。／日露戦争の結果が、日本国内や周辺地域に及ぼした影響を多面的に考察し理解する。
二学期	9 10 11 12	第５章　第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・国際平和と安全保障 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 第６章　経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌の発生と各国の対応 ・ファシズムの台頭 ・日本の恐慌と満州事変 ・日中戦争と国内外の動き ・第二次世界大戦と太平洋戦争 第７章　戦後の国際秩序と日本の改革 ・新たな国際秩序と冷戦の始まり ・アジア諸地域の独立 ・占領政策の転換と日本の独立	小テスト 中間試験 小テスト 期末試験	第一次世界大戦によって成立した総力戦体制と、その影響による社会の変化を考察し理解する。／各国が国際協調路線を採用した背景を考察し理解する。また、大戦後に植民地で民族運動が活発化した影響を考察し理解する。 世界恐慌が国際秩序にもたらした変化について、資本主義国･社会主義国の視点から考察し理解する。／ファシズムはどのようにして台頭してきたか、また、ソ連の体制とファシズム体制を比較し、類似点･相違点を考察する。／満州事変の原因・過程・結果を考察し、日本の国際社会での立場を理解する。／第二次世界大戦が起きた背景を考察し、欧米諸国がどのような影響を受けたのかを理解する。 第二次世界大戦後の国際秩序の形成と新たな対立が生じる経緯･背景を理解する。／アジア諸地域が独立を志向した思想的背景やその可否の推移を把握し、戦前･戦後の国際関係の変化に対する理解を深める。／日本の占領政策が転換された背景を考察し、国際関係のなかで歴史が築かれていくことへの認識を深める。

三学期	1 2 3	第8章　冷戦と世界経済 ・東西両陣営の動向と核開発 ・第三世界の連携と試練 ・冷戦構造のゆらぎ 第9章　グローバル化する世界 ・冷戦の終結、地域紛争の激化 ・グローバリゼーションの進展と、国際社会のなかの日本	小テスト 学年末試験	集団防衛機構が形成される背景への理解を深め、これが国際関係に与える影響について考察する。／第三世界形成の背景について考察し、新たな問題が生じることへの理解を深める。／東西両陣営における変化に伴う冷戦構造の変化について理解を深める。 冷戦の終結による国際情勢の変化と、その後の地域紛争に対する国際社会の対応について概観する。／冷戦終結によるグローバル化の進展、多様な側面で相互依存が高まる時代における我が国の国際社会との関わり方について概観する。

※　シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。